

genic training；以下 IAT）を実施するなかで導入・継続困難例に遭遇する。そこで AT 習得度に応じて集団的自律訓練法 (group autogenic training；以下 GAT) で、IAT の導入・継続支援を図っている。目的：IAT 実施者のうち導入・継続困難例に対し従来の方法に「臨床声楽法」を導入し、効果を検討する。方法：対象は当科外来で IAT 指導済の者で導入・継続困難例。AT の習得度別にグループ編成するが、厳密には区分せず人数は 4～7 名とする。参加者の疾患は各種の心身症の他、不安障害等も参加させた。1 セッション約 30 分とし標準的な GAT に「臨床声楽法」を導入した。セッション後、参加者に個別の感想を述べさせ、毎週のカンファレンスで個別に IAT 指導者全員にフィードバックし、複数の担当で評価した。成績：AT 導入・継続困難例の背景として社交不安障害および広場恐怖症の患者を多数見出した。これらのケースには「臨床声楽法」のアプローチでセッションが充実し、グループ・ダイナミクス効果をより引き出した。考察：対象者のうち、社交不安障害や広場恐怖症を伴うケースは集団療法が困難なため積極的工夫が求められた。しかし、GAT は行動療法的機能を併せ持つため治療的意義は大きく、より効果的となるよう今後「臨床声楽法」を活かしたい。

Ⅲ-4. 心身看護の必要性に気づかされた線維筋痛症の 1 例—看護師に求められた「母性」性と治療的自己について—

高円寺南診療所心身医療部心療内科¹ 同 禁煙指導科² 目白大学短期大学部生活科学科³

○伊藤むつみ^{1,2,3}飯嶋 正広¹ 野口 将成²

はじめに：線維筋痛症 (Fibromyalgia, 以下 FM) の外来診療では、初診時の電話問い合わせの対応に難渋するケースがあり、専門的訓練を受けた医療職スタッフの支援が必要となる。症例：50 代女。不動産営業職。家族歴：祖母、長女 RA。X-6 右尺骨骨折で医療機関を受診するも中断、疼痛に耐えて業務を継続し優秀な成績を上げていた。X-2 再婚以降、疼痛が全身に広がり耐え難くなった。プレガバリン、ガバペンチンを個人輸入で服用開始し小康を得た。その後、複数の専門医を受診したが治療方針を巡りことごとく対立したため、当科電話問い合わせとなる。事務職員への対応には限界があったため、看護師が引き継ぎ約 1 時間の傾聴の後、当科初診となる。猜疑心や医療不信が強い。うえ情動変化が激しく医師とのラポール形成困難が懸念されたが、医師の要請を受け相互の陰性感情発生を

予防するための母性的支援にて良好な信頼関係が次第に構築された。その後、禁煙指導を併行し、禁煙に成功。疼痛症状も軽快していった。考察：当該症例は、いわゆる医療不信にもとづくドクターショッピング例である。医療不信の原因は当該疾患の認知度が低く、かつ FM の専門医療機関でさえ信頼関係の構築にしばしば難渋する。結語：FM の外来診療は、初診に至る受診問い合わせの段階から専門的対応が求められる。心身医療に従事する看護師の「母性」性を含めた積極的かつ専門的な関与が期待された。

Ⅳ-1. 心身症の予防

桜井病院

○有留 照周

心身症はストレスからの自我防衛規制と臓器機能に対して不安な注意 (心身交互作用) により発病し、正常人に生ずるのみでなく、神経症や精神病に伴って発病する。しかし今まではストレスサーをストレスとして受け取る場合のみが考えられていたが大部分は、反省する事をストレスとして受け取り、反省しない方がよいと考えて、心の原気を抑圧し無意識にストレスから自我防衛する規制により、高血圧あるいは低血圧を生じ、臓器機能に対して不安な注意を向けることで臓器疾患を生じている。成人病と呼ばれる疾患は、若い時からの高血圧あるいは糖尿病が継続して中年以降に、動脈硬化を呈しているという要因が加わって生ずる。

人間は先天的に自己反省力という、後天的に、自己自身に素直な使い方を身につければ、健康でモラル的な人間らしい日常行動を行う事が出来る自己力をもって生れてくる。

改める必要がある行動、身体症状、正当防衛でない自我防衛を振り返り、感じた心の働きをあるがままに自覚して受け容れれば、無心の自己の態度が得られ、5 感を用いて外界を知覚し、あるいは解決する必要がある、問題に mild mind を程よく集中し両立するあるいは鼎立する方法で解決すれば安心できて、自分中心的自我を捨て、自我防衛しなくてよく多型遺伝子を克服した、正しい日常行動ができる。

Ⅳ-2. インクルーシブ・ポジティビティ：芸術表現をとおしたあるがまま受容による心身症第一次予防

相模女子大学人間社会学部人間心理学科

○尾崎真奈美